

伝統技術を守るには

一般社団法人 社寺建造物美術保存技術協会
代表理事 デービッド・アトキンソン

伝統技術を守るには

- 技術の継承は仕事量によって決まる
- 道具や材料なども、仕事量さえあれば供給は安定する
- 職人は仕事量があって、給料さえ合えば、後継者ができる

民間需要が減る中、材料、道具、

職人文化を維持するために

計画的に仕事量を確保

入札制度は最も大事

- 伝統技術を特殊技術として位置づける
- 最低制限価格を必ず設ける

1. 入札参加資格に必ず選定保存団体を指名する
2. それに同等する事業者は、必ず厳しく実績の追求を義務づける
3. 国指定文化財修理をしたい事業者はまず選定保存団体に入会することを義務づける

1. 選定保存団体に、技能者の認定制度を義務づける
2. 施工をする職人をさらに厳しく選定する

1. 施工は原則、選定保存団体が認定した準会員に限定する
2. それに同等する者の実績を厳しく確認する
3. 入札条件に、下請けにも同じ条件を義務づける

1. 入札ガイドラインを設ける
2. 地方行政と設計監理に
入札条件の徹底を求める
3. 近畿圏の入札問題を健全化する